



一般社団法人

日本病院薬剤師会

Japanese Society of Hospital Pharmacists

本会は、病院、診療所、介護保険施設に籍を有する薬剤師等を会員とする団体です。会員自らの資質の向上を図ることはもとより、質の高い薬物療法の提供を通じて、患者等国民の福祉や健康に寄与するために様々な活動を行っています。現在、病院薬剤師はチーム医療の中で薬剤師としての職能を活かし、薬物療法を適正化するとともに医療の安全を積極的に推進しています。

また、本会では毎月「日本病院薬剤師会雑誌」を発行し、会員の学術論文の掲載をはじめ、日病薬だより、研修報告等、医療や病院薬剤師に関する最新情報等を紹介しています。

本会ホームページには、本会の概要、学会・研修会等案内、専門薬剤師制度、医療機関向け情報や会員向け情報等、広く医療に関する情報を掲載しています。

ごあいさつ

日本では、全国で約 8,200 施設の病院が日々入院患者と外来患者の診療を行っています。そして、全国の病院・診療所・介護保険施設で約 63,000 名の薬剤師が働いています。

日本病院薬剤師会は、病院・診療所・介護保険施設に籍を有する薬剤師約 48,000 名を正会員とする団体として、質の高い薬物療法の提供を通じて、国民の健康及び福祉の増進に貢献するために様々な活動を行っています。

日本の医療は今、大きく変わろうとしています。近年の少子高齢化に伴う様々な問題に対応すべく、医療・介護の分野では、病院機能の分化と連携、地域包括ケアシステムの構築などの改革が進められています。

このような現状において、病院薬剤師にはさらなる病棟業務の充実に加えて、外来診療や周術期医療への参画、また、薬剤師が担うべき薬物治療管理をシームレスにつなぐために入退院支援や地域の薬局薬剤師との連携、必要な医薬品を不足なく患者に提供できる体制の整備などが期待されています。

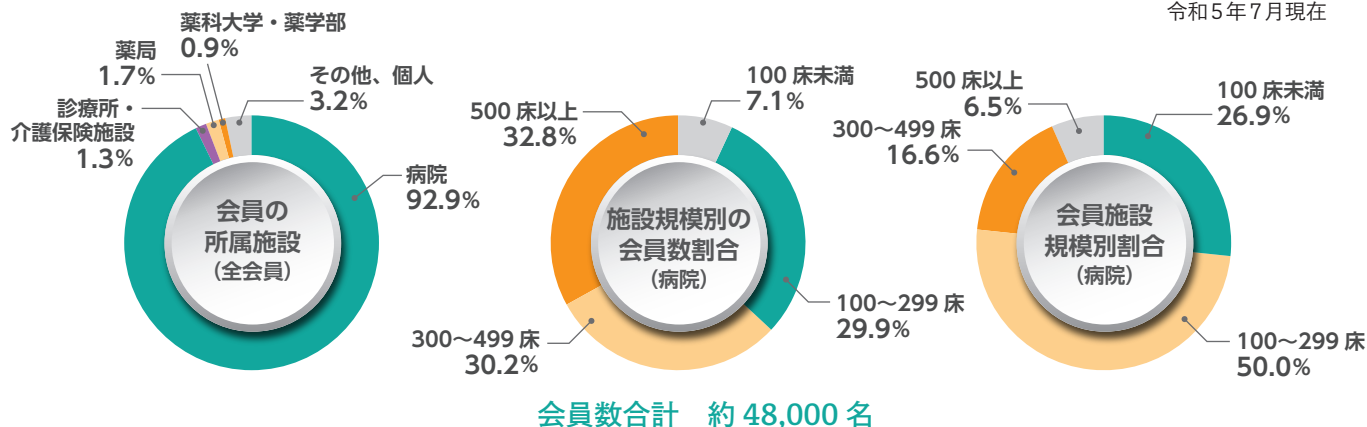
また、医療現場においても働き方改革が求められている中、厚生労働省が医師の負担軽減策として推進しているタスクシフト/シェアでは、薬剤師の職能に対して非常に期待が寄せられています。

これらの期待に応えるには、各医療機関の機能に応じた薬剤師の適正数の確保が必要です。本会は薬剤師不足や地域偏在・機能別偏在の問題についても、組織をあげて全力で取り組んでいきます。

一般社団法人 日本病院薬剤師会 会長 武田 泰生

本会には、全国の病院、診療所に勤務する薬剤師約 63,000 名の内、約 8 割が入会しています。

令和 5 年 7 月現在



主な事業

① 病棟業務および外来業務の推進

薬剤管理指導業務と病棟薬剤業務を両輪とした病棟業務の充実を目指しています。外来患者への薬剤師業務の充実を目指しています。

- (1) 病棟業務・外来業務の充実・拡大を図るための取り組みを行っています。
- (2) 必要な薬剤師の増員等、実践可能な体制充実のための支援をしています。

② チーム医療の推進

- (1) チーム医療の中で薬剤師が積極的に業務展開するための支援を行っています。
- (2) 処方提案や安全な薬物療法を行うための技術取得を支援しています。

③ 病院薬剤師の資質向上

チーム医療発展に貢献できる高度な能力をもった薬剤師の育成に取り組んでいます。

- (1) 生涯学習、研修事業を推進しています。
- (2) 専門・認定薬剤師、病院薬学認定薬剤師等の養成の事業を展開しています。

④ 医療連携の推進

有効で安全な薬物療法のため、医療機関、保険薬局、介護保険施設等との医療情報の一元管理を推進しています。

⑤ 医療安全対策の推進

- (1) 医薬品の適正使用に必要な最新情報を管理・提供し、病院・地域の安全対策を推進しています。
- (2) 薬剤師が薬物療法の安全に責任を持つ業務体制の構築を支援しています。
- (3) 医療安全確保に資する医療情報システムの導入支援と医療介護 DX に向けて支援しています。

病院機能に応じた病院薬剤師の主な業務

高度急性期・急性期

- 入院前の患者の服薬状況等の確認
- 集中治療室・病棟等における薬学的管理・指導
- 周術期の薬剤管理
- 転棟や転院時における患者情報の関係者間での共有

慢性期

- 在宅復帰を目指した多職種との連携
- 嚥下・運動機能等にあわせた薬物療法の提案と服薬支援
- 医師・看護師、薬局薬剤師、介護関係者間への服薬に関する情報の提供
- 外来・在宅に移行する際の服薬状況等の患者情報の提供

チーム医療への参画

各医療職種の専門性を発揮して積極的な協働・連携を図ることにより、患者様の状況に的確に対応した医療サービスを提供するために、チーム医療の推進が図られています。薬剤師は、薬物療法の高度化を背景に、医療の質の向上、医療安全の確保の観点から、数多くのチームに参加しており、●栄養サポートチーム●外来がん化学療法チーム●緩和ケアチーム●感染制御チーム●抗菌薬適正使用支援チーム●褥瘡対策チーム●糖尿病チーム●精神科チーム●周術期管理チームなどで活躍しています。

医療安全

医療機関で使用する医薬品には、患者様に直接投与するものから、手術や検査で使用するもの、血液製剤、再生医療等製品、ワクチンなど、様々な用途のものがあります。これらの医薬品が適正に使用されるために、薬剤師は各医療職と連携しながら様々な医療安全対策を行っています。

また、近年、効果の優れた医薬品が数多く上市される一方で、複雑な使用方法や新たな重篤な副作用・副反応のリスク管理が必要となり、薬物療法を取り巻く環境が大きく変化しています。薬剤師には患者様の安心・安全な薬物療法の提供に取り組むことが強く求められています。具体的には、病院内の医薬品の安全使用のための手順書の整備や他の医療職に対する研修会の開催などによって、安全な医療提供体制の構築に貢献しています。

病院内を中心とした患者の安全確保に資する調剤機器等の導入のみならず電子カルテを中心とした医療情報システムの医薬品関連のマスタ制御を行い、他の医療職の医薬品の安全使用を支援しています。

回復期

- 早期回復を目指した多職種との連携
- 嚥下・運動機能等にあわせた薬物療法の提案と服薬支援
- 転院・転所先の環境を踏まえた薬剤の評価調整
- 退院後に関わる外来・在宅医療スタッフとの連携

外来・在宅

- 複数診療科受診時を含む、服薬情報の一元的・継続的な把握とそれに基づく薬学的管理・指導
- 外来・在宅医療に関わる医師・薬局薬剤師等との連携及び連携のサポート
- 必要に応じて、他の医療機関への服薬状況等の患者情報の提供

6 病院、診療所、介護保険施設等の薬剤師業務への取り組み

薬剤管理指導業務の質的向上と完全実施、全入院患者に対する持参薬管理と処方提案の実践、夜間・休日体制の強化等を推進しています。

7 調査研究の推進

医療の質向上に資する研究やエビデンスの構築を行っています。

8 災害への対策・対応

災害発生時に適切に対応できる医療支援体制を構築し、大規模災害時には発災早期からの医療支援活動を行っています。

9 薬剤師養成のための薬学教育への協力

全国の薬学生が均一で質の高い病院実習を受けることができる体制整備を行っています。

10 会員への情報提供及び啓発事業の充実

会誌やホームページを介した情報の提供や、会員啓発に関する出版物を作成しています。

11 国際交流事業の推進

FIP (International Pharmaceutical Federation)、ASHP (American Society of Health-System Pharmacists)、FAPA (Federation of Asian Pharmaceutical Association) 等へ参加し、国際連携を進めています。

専門性の高い薬剤師の育成

生涯教育を基盤とした専門・認定薬剤師

生涯学習を推進し、高度化・複雑化する薬物療法等の幅広い知識及び高度な技能を習得した実践力を有する薬剤師を養成しています。

日病薬病院薬学認定薬剤師制度は、第三者評価機関である公益社団法人薬剤師認定制度認証機構から特定領域認定制度の認証を受けており、本制度の認定者は14,584名となっています。

さらに専門分野の臨床知識と薬物療法等について、十分な知識と技術を備えた薬剤師を養成しています。

がん薬物療法専門薬剤師 (56名)、がん薬物療法認定薬剤師 (1,071名)、感染制御専門薬剤師 (330名)、感染制御認定薬剤師 (1,071名)、精神科専門薬剤師 (62名)、精神科薬物療法認定薬剤師 (193名)、妊婦・授乳婦専門薬剤師 (24名)、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師 (170名)、HIV感染症専門薬剤師 (32名)、HIV感染症薬物療法認定薬剤師 (103名)

令和5年7月現在



大災害への取り組み

東日本大震災、熊本地震の際には被災地の医療支援のため全国から薬剤師を派遣しました。

- (1) 被災地の病院等に多くの薬剤師をボランティアとして派遣しました。
- (2) 被災地に派遣される医療チームに薬剤師が参画する支援をしました。

新型コロナウイルス感染症への取り組み

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けて薬剤師が重要な役割を担いました。

- (1) 薬物療法の提供等に加え、ワクチン対応等、感染拡大防止に向けて尽力しました。
- (2) 自治体でのコロナウイルス対応業務に薬剤師が参画しました。



一般社団法人 日本病院薬剤師会

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷 2-12-15

日本薬学会長井記念館 8F

TEL : 03-3406-0485

FAX : 03-3797-5303

ホームページ

URL : <https://www.jshp.or.jp/>

